

英語科 研究協議会

日 時： 令和元年11月1日(金) 9:45~10:35

場 所： 大会議室後ろ側

参加者： 授 業 者 宇佐美 聖子 シーラ・ヒリンジャー

※宇佐美先生は「令和元年度英語担当教員授業力向上実践研修
(秋田県教育委員会高校教育課事業)」を受講。

参 観 者 山田 美穂子、三浦 直彦、笠原 光子、(記録)関屋 亜生以
菅原 優子、小野寺 貴子

1 授業者から

SSH事業への取組等を通じて、プレゼンテーションを行う機会が多い生徒たちである。人前で話す経験を積ませるために英語の授業で何かできないかと考えた。昨年の勤務校で国際教養大学の先生が行った活動を取り入れてみた。思っていたよりも生徒たちは自分が担当する世界遺産について主体的に調べ、英文を作っていた。プレゼンテーション時の姿勢(ポイント)を1時間かけて事前に指導したことで、本時においては各生徒が自信をもって活動していた。準備した内容に加えて、即興で+αのコメントをつけて発表する者もいて(首里城の火災についてなど)成長が感じられた。後半やや急いだが、最終的にクラス全体でベストプレゼンターを決めるところまでいけた。各プレゼンテーションについてのコメントをグループ内で共有させても良かった。全員の原稿をまとめて文集を作ることも考えたい。

2 参観者から

山田先生： プレゼンの準備段階で使う定型フォーム(枠)がよく工夫されていた。それに従って生徒のプレゼンが内容のあるものになっていた。イラストや絵もよくできていた。

小野寺先生： プレゼン本番に向けて、各生徒が段階を踏んで準備ができるようになっていた。特に本時はグループワークが機能していた。生徒が話すことへの自信をもつことができた。

笠原先生： 生徒が活躍する場面があった。生徒がリラックスして各活動に向かっており、授業の流れもスムーズだった。生徒がプレゼン対象に選んだ世界遺産に重なりがなかったのは何故か。(答え)教師側で選んで与えた。本時の授業の導入段階で、プレゼン時の留意点や活動の進め方についてシーラ先生から確認があったのが良かった。各プレゼンの後、発表者からの質問受け付けが欲しかった。また、プレゼン時はマスクを外すほうが良い。

三浦先生： ワークシートに記入しながら聞き取った情報を整理していく活動や、他者の発表を自分のものとして振り返る活動は、深い学びに繋がる。学習指導案の生徒観に書かれ

ている「自信を持って発表できる態度を育成したい」との整合性がある授業であった。最後にクラスのベストプレゼンターを決める際の集計方法及び基準をもう少し明確にしたかった。

菅原先生： 教師側も生徒側も本時の授業に向けての準備がよくできていた。生徒が元気に活動している姿が印象に残った。スピーチ原稿のチェックはしたのか。(答え)事前に1回おこなった。

関屋先生： ALTとJTEの役割分担ができていた。冒頭のデモンストレーションで発表及び評価の際のポイントが確認できていた。聞く側の態度にも留意させていたのが良かった。質疑応答の進め方や質問する際の表現及び内容(何を聞くべきか)を指導する必要がある。プレゼンテーションについて生徒同士がアドバイスをしたり批判し合ったりする機会があればさらに活発な授業になる(雰囲気が大切)。発表後の自己評価や振り返り(どんな力が身に付いたのか。次回に向けての改善点は何か)の場面がほしい。教師からのフィードバック(称賛等)を増やしたい。6人グループというサイズはやや大きい。4人くらいでないと一人一人の負荷が足りない(遊ぶ者が出てくる)。原稿から離れてスピーチする練習もしたい(原稿を手を持たない。メモを活用する。絵を黒板等に貼る等)。これまでの研修等を生かしつつ、生徒の実態を踏まえた授業であり、参考となる点が多くあった。ご苦労さまでした。

